

平成30年度 西東京市立田無第四中学校 関係者評価表(2)

学校の教育目標	
・すすんで学び、しっかりした学力をつけよう。・丈夫な体をつくり、豊かな情操を身につけよう。・友達を大切に、仲間の輪をひろげよう。・目標を決め、深く考えて、最後までやりぬこう。重点目標 自治 1 考える 2 思いやる	
1 目指す田無四中の姿	(1) 確かな人間関係を基盤とする「温かな学校」 (2) 生徒と教職員一人一人が生き生きとしている「活力のある学校」 (3) 生徒、教職員が一体となり、本気で取り組む「感動あふれる学校」
2 目指す四中生の姿	(1) 自ら学び視野を広げ、丈夫な体と豊かな人間性を身につけた生徒 (2) 友達を大切に、礼儀正しく接し、相手を思いやれる生徒 (3) 何ごとにも本気でねばり強く取り組み、最後までやり抜く生徒
3 教職員の姿	(1) 一人一人を大切に、礼儀正しく公平に生徒と接する教職員 (2) 教育の専門家として資質向上に心がけ、研修に励む教職員 (3) 教育公務員としての自覚を持ち、信頼される学校をつくる教職員

	具体的方策	学校自己評価		学校の取り組みおよび改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	授業のユニバーサルデザイン化を重視し、「わかった」と言える授業を実施する。	4	4	四中ユニバーサルデザインにより教育環境を整えた上でわかりやすい授業を目指した。授業のねらいを明確にして、習得したことを活用し身につける授業に取り組んでいく。	A	素晴らしい取組であり、異動してきた教員にも丁寧に説明し、継続して欲しい。
	教材教具の工夫やICT機器の活用を進め、興味をもって学べる工夫を行う。	4	4	各階に単焦点モニターを導入。教材・教具の工夫に研究授業での成果を生かした。コンピュータ・視聴覚機器の授業への活用をさらにすすめる。	A	徐々に進んでいることが、授業公開等から感じられる。
	言語活動を生かした授業に取り組み、「思考力・判断力・表現力」の育成に努める。	4	4	記録する、要約する、説明する、論述するなどの活動を意図的に設定した。さらに、生徒同士の学び合いや考える時間を増やす。	A	3. 4年前と比較しても、自分の意見を表現する力が育っている。
豊かな心の育成	学校行事や委員会活動、部活動などの諸活動を通して、学級・学年への所属感や自己有用感を育てる。	4	4	それぞれの活動において、所属感や自己有用感を高めるよう指導した。上級生を手本として取り組んでいる。さらに、活動を活発にさせていく。	A	上級生をお手本とする意識付けを継続し、この取組を引き継いでいってほしい。
	学校図書館の活用を進め、朝読書や読書マラソンに取り組み、読書習慣の定着を図りながら、学びを深めさせる。	4	4	安定して朝読書を実施している。学年文庫も新設し、読書活動を推進している。特色ある本校の体験学習の機会を今後も生かしていく。	A	表現力育成のきっかけとなる取組である。引き続き全校での実施を希望する。
	道徳で人権や命を大切に授業に取り組み、自他を大切する態度を育てる。	4	4	道徳教育、人権尊重教育などを継続して行い道徳的判断力を育成している。特別な教科道徳の完全実施に向けて、研修を進めた。来年度は市研究指定校を拝受しさらに取組を進める。	A	指定校研究を指示する。生徒の為に心の研究を進めようとする教員の意欲を認める。
個に応じた指導	基本的な生活習慣の育成を目指し、時間を守る、あいさつを交わすなどのルールやマナーの大切さを理解させ、集団としての成長を図る。	4	4	あいさつ運動、一分前着席など行い、規範意識や生活習慣を日々の生活の中で繰り返し意識づけ指導し、一定の定着が見られる。今後も自分たちで行動できるように指導していく。あじみの励行を進める。	A	廊下で会ってもよく挨拶する生徒達である。自分から挨拶できる生徒をさらに増やしていく為にも、学校全体で自ら挨拶する習慣を醸成していく。
	ふれあい週間や教育相談活動を充実させ、個々の生徒との関係を築き、いじめの防止等生徒の学びを支援する。	3	4	職業調べ、身近な人へのインタビュー、職場体験、上級学校調べ等行い、自らの生き方、意識づけを早めに行うよう指導している。面談や進路説明会さらに丁寧に行っていく。	A	ふれあい週間を年四回実施し、よく努力している。生徒と教員とのコミュニケーションのためによく時間を割いている。不登校生徒への教育相談活動は進路指導の視点も重要である。
地域との連携	ボランティア活動や奉仕活動、清掃活動等を進め、生徒の自主性を伸ばすとともに、地域社会の一員としての自覚を育てる。	4	3	生徒会等を中心にボランティアへの参加呼びかけをしている。ボランティア活動の報告を朝礼で行っている。地域のボランティアに150名が参加。	A	育成会行事の一つ中止になったなか、多数の参加者があった。引き続きボランティア活動を推進して欲しい。
	学校公開や学校HP・学校だより、学年だよりなどを通して、本校の教育内容や生徒の活動について積極的に発信し、理解と協力を得る。	4	4	各種便り、HPの活用により学校の様子をタイムリーに情報発信している。携帯メールの活用により行事の開催等の情報発信も積極的に行っている。今後も続けていく。	A	転校生や新入生対応のHPの活用が進んだ。学校・学年・学級・PTA等各お便りによる情報発信も進んだ。

A：自己評価は適切である。 B：自己評価は適切ではない。 C：評価のための資料が不足している。 D：評価は不可能である。